

II 平成24年度事業実施状況

食品の安全・安心への関心が高まる中、畜産経営の大型化、口蹄疫及び高病原性鳥インフルエンザの発生や海外からの家畜伝染病侵入の危険性が増大する等の畜産情勢が変化する中で、安全な畜産物の供給と畜産経営の安定を図るためには、家畜衛生対策を円滑に推進することが重要である。

家畜保健衛生所では、家畜伝染病の発生予防と家畜疾病による損耗を防止するための予防衛生対策を講じるとともに、生産段階における家畜の飼養衛生管理基準の徹底を推進するなど、状況の変化に適切に対応しながら各種事業を実施している。

1 家畜伝染病予防事業

家畜伝染病予防法（昭和26年法律第166号 以下 「予防法」）の規定に基づき、家畜伝染病及び家畜伝染性疾病の発生とまん延を防止し、家畜飼養者をはじめ、獣医師、市町、関係団体等と連携し家畜防疫体制の強化を図る。

(1) 主な検査と対象家畜

主な検査として、予防法第5条の規定に基づき発生予防又は発生予察のため以下の検査を実施した。

ア ブルセラ病・結核病及びヨーネ病

(ア) 搾乳の用に供し又は供する目的で飼養している牛、及びその同居牛

(イ) 放牧予定の乳用牛、及び放牧場で飼養されている乳用牛

イ ブルセラ病・結核病

種付けの用に供し、又は供する目的で飼育している雄牛

ウ 馬伝染性貧血

(ア) 競馬に出場させる目的で飼育している馬

(イ) 種付けの用に供し、又は供する目的で飼育している雄馬

(ウ) 乗馬クラブ等に飼育されている乗用馬

(エ) 繁殖の用に供し、又は供する目的で飼育されている雌馬

(オ) 家畜保健衛生所長が必要と認める馬

エ 家きんサルモネラ感染症（サルモネラ・プロラムによるもの）

養鶏振興法の規定による種鶏業者が飼育している鶏

オ 高病原性鳥インフルエンザ

100羽以上鶏を飼育している農場のうち、家畜保健衛生所長が選定した農場

カ 腐蛆病

管内に飼育されている蜜蜂

キ 馬パラチフス及び馬伝染性子宮炎

繁殖の用に供し、又は供する目的で飼育されている雌馬

ク 牛のアカバネ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症、イバラキ病及び牛流行熱、

発生予察のため、未越夏でワクチンを接種していない牛を選定し検査

その他、公共牧場に放牧された乳用牛に対する定期的な衛生検査（臨床検査、血液検査、寄生虫検査、牛体消毒等）、養豚場の清浄度を保つための豚コレラ・オーエスキー病等の検査、種鶏場に対する衛生検査、監視伝染病の疑いのある家畜及び不明疾病に対する病性鑑定等を実施した。

(2) 検診・検査、注射等の成績

H25.3.31 現在

事業名	区分	実績 (頭羽数)	検査結果(頭羽数)			備考
			陰性	疑陽性	陽性	
検診・検査	ブルセラ病	7,429	7,429	0	0	
	結核病	7,429	7,429	0	0	
	ヨーネ病	14,382	14,346	28	8	内、清浄化6,891頭 疑陽性3頭、陽性2頭
	集団検査	565	ヒロ 549 BLV 475	0	ヒロ 16 BLV 90	放牧予定牛 (ヒロプラズマ病等)
	牛伝染性疾病検査	398,177	398,171	0	6	口蹄疫、IBR、BSE等 (IBR:6頭発生)
	牛海綿状脳症	4,494	4,494	0	0	
	馬伝染性貧血	372	372	0	0	
	馬インフルエンザ	0	0	0	0	
	馬伝染性子宮炎	11	11	0	0	
	馬パラチフス	11	11	0	0	
	馬伝染性疾病検査	939	939	0	0	馬インフルエンザ等
	豚伝染性疾病検査	234,132	234,132	0	0	豚コレラ、口蹄疫、 オースキー病、豚水泡疹
	豚コレラ	100	100	0	0	抗体検査
	鶏伝染性疾病検査	407,488	407,488	0	0	高病原性鳥インフルエンザ等
	高病原性鳥インフルエンザ	420	420	0	0	
	家きんカモネリ感染症	1,700	1,700	0	0	種鶏
	腐蛆病	2,709	2,709	0	0	
その他	畜舎消毒	2,834				監視伝染病発生農場 1戸含む
	自衛防疫指導	5				

(3) 各種抗体検査成績

ア 牛流行熱等抗体調査

吸血昆虫により媒介されるか、発生に季節性があり吸血昆虫の媒介が疑われる以下の5疾病について、発生予察のための抗体検査を実施した。 検査結果：当該疾病の流行を認めず

疾病名	戸数	頭数	6月		8月		9月		11月	
			<2	2≦	<2	2≦	<2	2≦	<2	2≦
アカバネ病	6	40	26	14	28	9	33	6	39	0
チュウガン病			40	0	37	0	39	0	39	0
アイウィルス感染症			40	0	37	0	39	0	39	0
イバラキ病			37	3	34	3	36	3	37	2
牛流行熱			40	0	37	0	39	0	39	0

イ 牛白血病

放牧場における感染を防ぐために放牧予定牛を対象に検査を実施。

検査頭数	陽性頭数	陰性頭数
565	90	475

ウ 豚コレラ

抗体検査を実施し、清浄性を確認した。

検査戸数	検査頭数	陽性頭数	陰性頭数
10	100	0	100

エ オーエスキー病

清浄化対策推進のために抗体検査を実施した。また、種豚生産農場の出荷予定豚について検査し、陰性豚の流通に努めた。

検査戸数	検査頭数	野外抗体陽性頭数	野外抗体疑陽性頭数	野外抗体陰性頭数
30	8,534	469	87	7,978

オ PRRS (豚繁殖・呼吸障害症候群)

抗体検査により農場の浸潤状況を調査し衛生指導を実施した。

検査戸数	検査頭数	陽性頭数	陰性頭数
22	716	482	234

カ ニューカッスル病

抗体検査結果をもとに、適切なワクチン接種を指導した。

戸数	羽数	<2	2	4	8	16	32	64	128	256	512	1024	≤2048
21	350	10	2	4	7	14	42	54	53	54	66	44	

キ 鶏マイコプラズマ病

抗体検査により農場の浸潤状況を把握し、衛生指導を実施した。

病原体名	検査戸数	検査羽数	陽性羽数	疑似羽数	陰性羽数
マイコプラズマ・ガリペチム	17	250	90	0	160
マイコプラズマ・シヒエ			52	0	198

(4) 放牧牛衛生検査

管内2か所の公共牧場において、放牧牛を対象に衛生検査を行い、各種疾病の早期発見及び早期治療に努めた。

(陽性頭数/検査頭数)

疾病名	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ピロプラズマ病	0/22	0/38	0/40	0/32	0/32	1/32
牛肺虫症			0/10	0/32	0/32	

(5) 輸入家畜着地検査

仕向先に輸入家畜が到着した後、原則として3か月間当該家畜の健康状態の確認及び必要な衛生指導を行った。

畜種	件数	検査頭数	異常の有無	備考
馬	3	3	無	那須塩原市、那須町

(6) 病性鑑定実績

ア 市町別の病性鑑定件数及び頭羽数

(総件数：237件 総頭羽数：922件)

	大田原市		那須塩原市		那須町		那珂川町		那須烏山市		計	
	件数	頭数	件数	頭数	件数	頭数	件数	頭数	件数	頭数	件数	頭数
乳用牛	9	30	73	195	26	341	2	2	7	29	117	597
肉用牛	25	65	37	48	29	53	3	3	3	22	97	191
馬			1	5							1	5
豚	3	6	5	7	2	40					10	53
緬山羊			2	2	1	1					3	3
鶏	1	7									1	7
その他			2	13	4	47	1	1	1	5	8	66
計	38	108	120	270	62	482	6	6	11	56	237	922

*その他：環境

イ 市町別の病性鑑定検査材料別の検体数

(総検体数：1,039検体)

	大田原市	那須塩原市	那須町	那珂川町	那須烏山市	計
糞便	21	90	346	3	6	466
死体及び生体	11	30	11	1	2	55
血液	95	164	92	1	48	400
鼻腔スワブ	5	20	16		5	46
その他	9	9	53	1		72
計	141	313	518	6	61	1,039

その他：敷料、環境ふきとり等

ウ 平成24年度に診断された主な疾病

【牛】 下痢症：牛ロタウイルス病、牛コロナウイルス病、サルモネラ症、クリプトスポリジウム症、コクシジウム病

呼吸器病：牛伝染性鼻気管炎、牛RSウイルス病、牛コロナウイルス病、牛パストツレラ（マンヘミア）症、

その他：牛ウイルス性下痢・粘膜病、クロストリジウム感染症

【豚】 豚胸膜肺炎、豚パストツレラ症、豚レンサ球菌症、豚大腸菌症

【山羊】 捻転胃虫症

【蜜蜂】 アメリカ腐蛆病